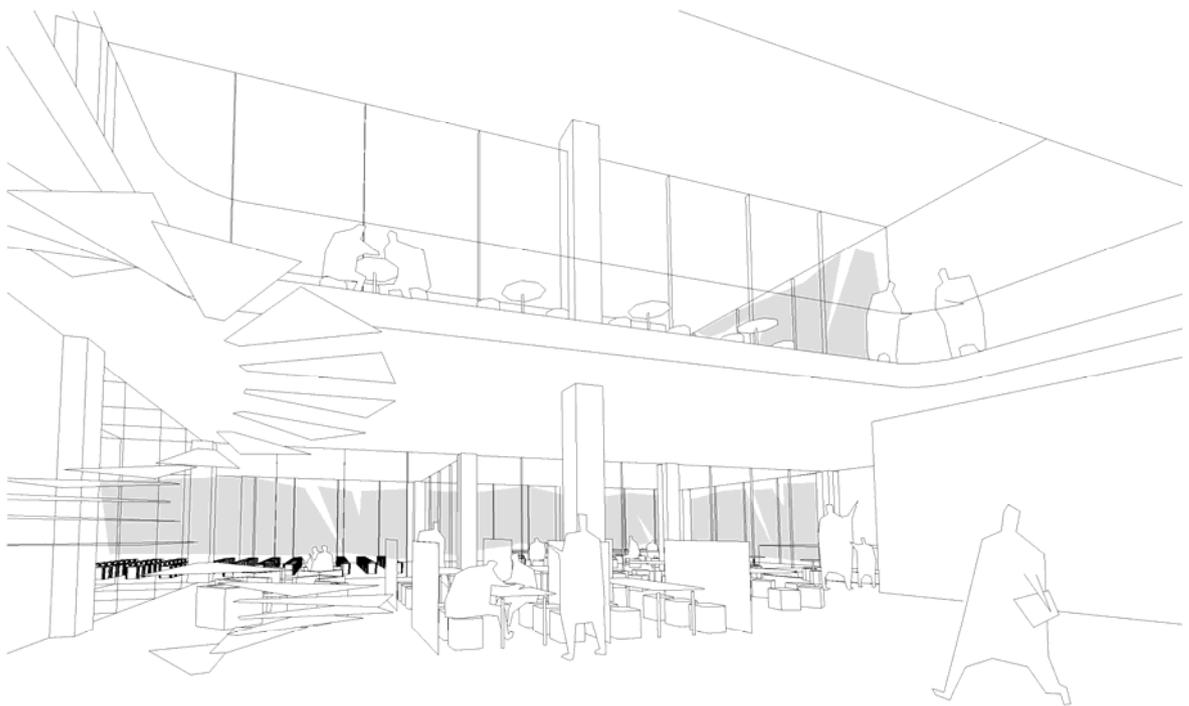


武蔵野プレイス（仮称）についての基本的な考え方



3F 市民オフィスより4F フォーラム・サロンを見上げる

平成19年6月

担当課 企画政策室 企画調整課

● 専門家会議の提言を受けて

No.	専門家会議の提言	専門家会議の提言を受けて
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラウジング等のコンセプトを堅持しつつ、図書館機能はなるべくまとめ、利用者の利便性を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラウジング等のコンセプトを堅持する上で、全階に必ず物理的な書架を設置（図書が介在）する必要はなく、むしろ各フロアを強く性格付ける工夫をすることでより多様なブラウジング体験が可能。 ・ ハード面の工夫として、オープンなメイン階段とエレベーターのシースルー化により、視覚的なブラウジング化を図る。 ・ 3、4階に配置予定であった雑誌を主に1階に配置し、図書館機能の集約を図り、図書館利用者の利便性、管理面での合理性を確保。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賑わいのある1階のスペースが必要。（例えば雑誌を1階に配置） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌の総タイトル数約600タイトルの内、約500タイトル（最新刊のみ、芸術系雑誌は別に地下2階100タイトル配置）を1階に重点配置。 ・ 「ギャラリー」（知のギャラリーの拡張版）を新設。 ・ 館の案内、紹介ができるコミュニケーション・カフェ（情報コンシェルジュ+カフェ）を中央部分に配置し、ギャラリーやマガジンラウンジと一体的な空間を創出する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知のギャラリーは内容を再検討し、併せてどの階に置くのが良いか検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「知のギャラリー」の概念を拡張し、図書館のみの枠組みにとらわれず、広く施設の活動を表すもの（館内活動紹介イベント、図書の企画展、創作品の展示発表等）としてゆるやかに展開できるよう、「ギャラリー」を1階に設置。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能が融合するオープンなスペースのイメージが重要。（例えば「カフェ」や「知のギャラリー」などをきっちり分けずに一体になったスペースで展開する）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全館にわたり「オープンプレイス」（できるだけ室ごとに間仕切壁等で区切ることなく、オープンなスペースが曖昧かつフレキシブルにつながっていくような場）をフロアの中央付近に広がるように配置。（ex.地下2階は青少年の居場所という観点を重視し、フロアのセンターにいつでも気軽に利用できるオープンなスペース（プレイスペース）を確保）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民オフィス（市民活動）のフロアに、スタディコーナーがあることにより、スタディコーナー利用の青少年が市民活動団体等の活動が自然に目に入る効果的な配置構成が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に専門家会議の提言と基本設計は同趣旨であるため、その精神（異なる世代、活動が出会う）を最大限尊重し、さらに工夫を加える。

No.	専門家会議の提言		専門家会議の提言を受けて
-----	----------	--	--------------

6	<ul style="list-style-type: none"> 公園に隣接するという利点を生かし、屋上緑化を導入するとともに、屋内外の空間の交流をはかる。その際、緑を活かし、景観に配慮した施設づくりを心掛ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 屋上緑化部分を拡充することで、木々に囲まれた豊かな周辺環境を有した最上階を緑陰読書や憩いの場として積極的に利用する。 3階のスタディコーナー40席とは別に約20席分を4階に確保し、ワークサロンとして主に社会人向けの「書齋」として提供する。
---	---	--	--

7	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の入口は建物西側に設置することを検討 		<ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞予測に基づき、できるだけ渋滞の影響を回避し、ムーバスの運行に影響を与えない施設西側に駐車場の出入口を設置。
---	---	--	---

● その他検討した事項

① 2階サブライブラリーの拡充

- 2階は児童図書及び生活系図書フロアとして拡充し、子育て中の親子が楽しめるフロア構成とする。その結果、全館事務室は3階に移動。

② フォーラムの配置

- 専門家会議最終報告書では、市民活動と生涯学習の接点を生かすことを重視し、3階にフォーラムが配置されていたが、3階に事務室を配置したことに伴い、基本設計どおり、4階にフォーラムを配置。さらに、3、4階は吹き抜けを介して専用階段を設置し、フロアの一体感を持たせる。

● 施設規模及び建設コストの検討

A. 施設規模

前記「専門家会議の提言を受けて」の1～7項目を中心に、以下のとおりハード面を検討

	内容	面積の増減
1	ブラウジング階段の床化と吹き抜けの整理をしたことにより、オープンプレイス（中央部の大きなスペース）を創出し、シースルーエレベーター及びオープンなメイン階段からなる新たなブラウジング機能への変化	約 200 m ² 増（吹き抜けを床化） ※面積の増減はないが、ブラウジング階段を床化した面積としては約 150 m ² 増に相当
2	外形の正形化による面積調整及び駐車場の入口が西側に移動に伴い、駐輪場が重なったことによる駐輪場確保による西側セットバック（50cm程度）	約 260 m ² 減
3	専門家会議提言による4階の屋内外の緑豊かな空間確保	約 195 m ² 減
	合計	全体で約 255 m ² の減

【トータル面積】

- ・ 地上4階地下3階

約9,050m²（9,305 m²⇒255m²減） ※駐車場（地下3階）部分を除く

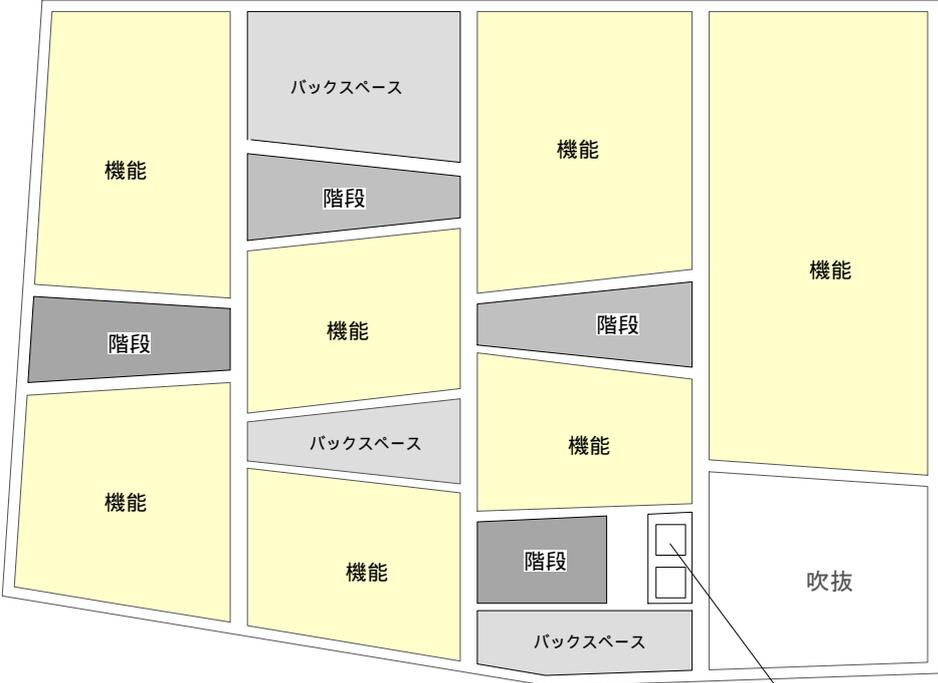
B. 建設コストの減

	内容	基本設計 (億円)	修正案 (億円)
事業費	面積減及び構造の正形化、内外装材料の工夫等により約2億円減を努力	59.00	57.00
	用地買戻し費	25.49	25.49
	合計	84.49	82.49
財源 (見込み額)	まちづくり交付金（国土交通省所管） H19～22年（4ヵ年）		11.76
	市債（東京都区市町村振興基金からの借り入れ、償還20年）	41.21	36.63
	平成19年度基金繰入金（平成20年度以降未定）	17.00	12.00
	一般財源	26.28	22.10
	合計	84.49	82.49

● 今後のスケジュール

- ・ 基本的な考え方に基づき、7月から基本設計の修正を含む実施設計を開始（川原田氏へ委託）⇒9月農水特で中間報告
- ・ H20年中期に建設工事開始（工期2年を予定）
- ・ H22年度末オープン予定

ブラウジング機能とオープンプレイスの考え方



基本設計

比較的機能ごとに分節された平面計画とランダムな階段の配置による空間構成

エレベーター 通常の形式



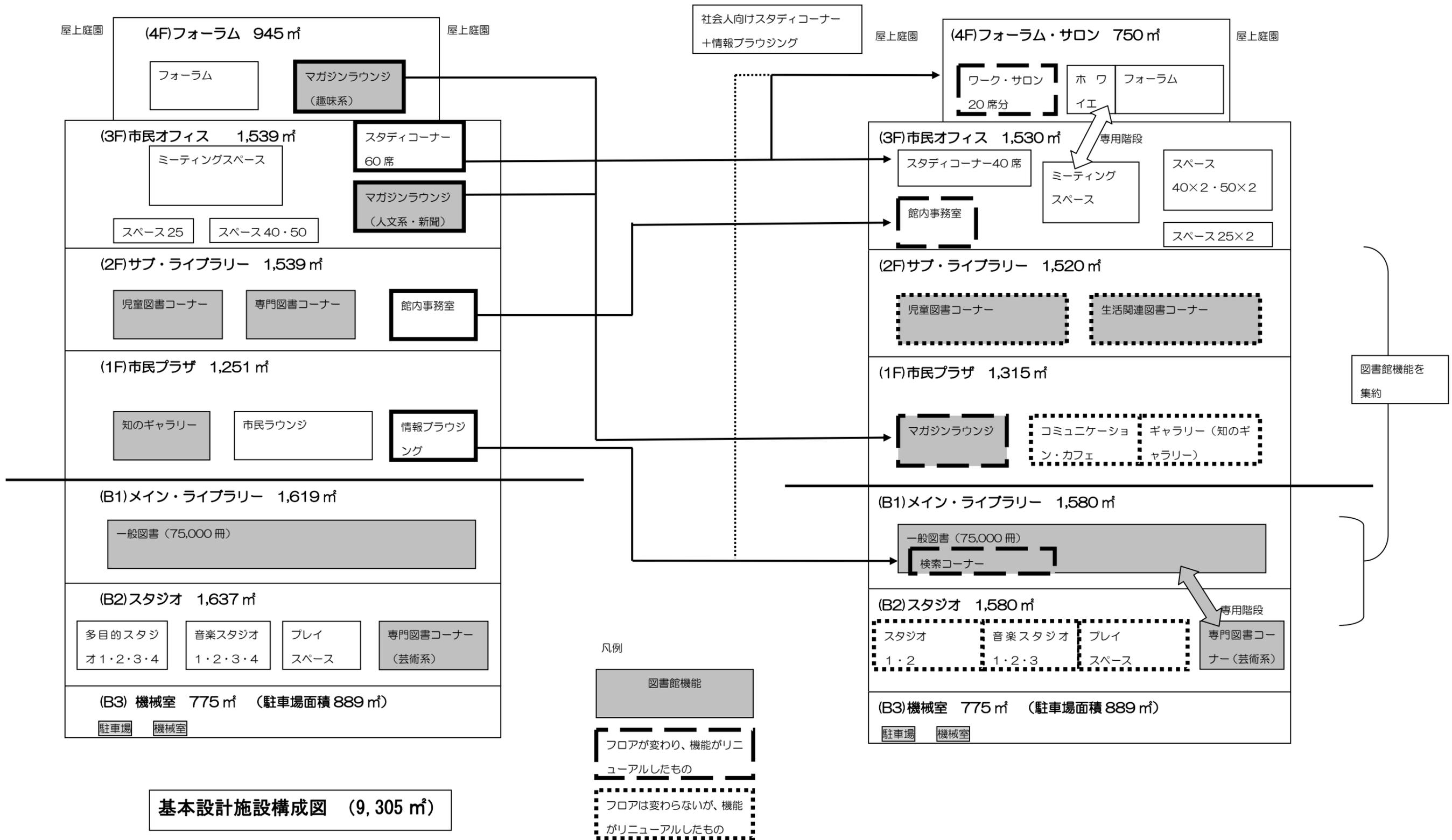
修正案

「オープンプレイス」の考え方 (できるだけ仕切らない連続した場をつくる) から階段を集約し、スペースをまとめる

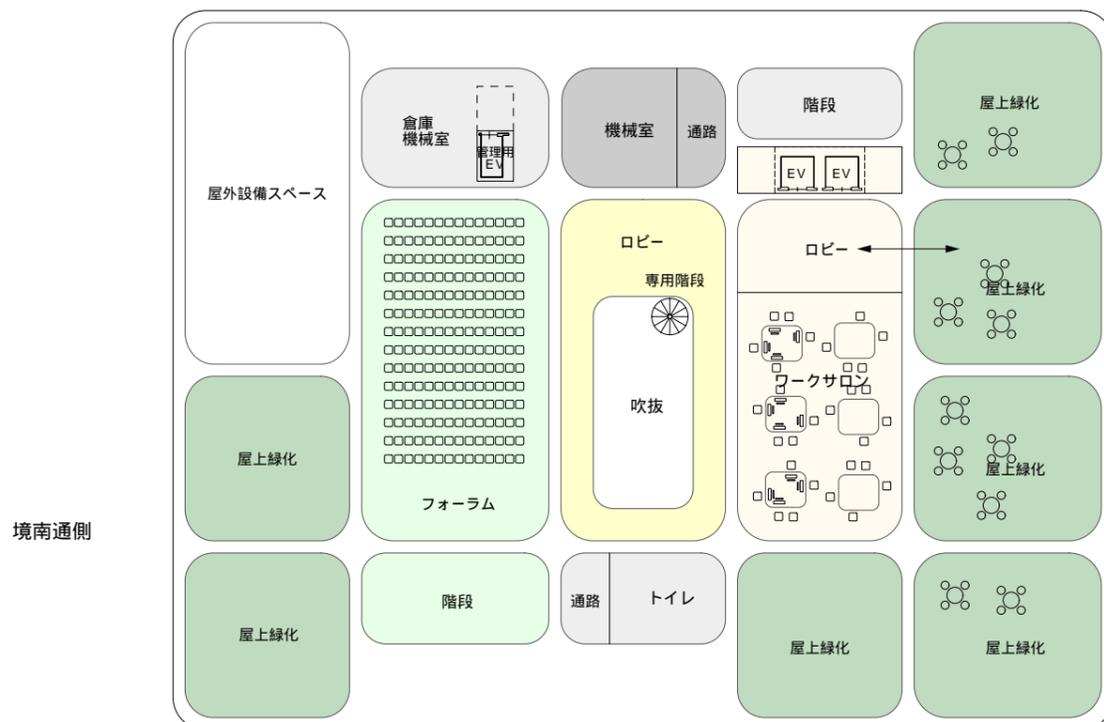
エレベーター フロアの内側に向きシースルー化を検討

オープンで ゆったりとした階段

施設構成比較図



修正案：各階フロア構成図



4F: フォーラム・サロン

このフロアは、周辺の樹木や屋上緑化による緑豊かな環境の中、レクチャーをキーワードとした「フォーラム」、個人が自由な発想で活動できる「ワークサロン」を配置している。「フォーラム」は、生涯学習の場、地域自由大学の交流の場、市民活動の発表の場など、レクチャーを主軸に展開される。また、これらのレクチャーをアーカイブ化し、レクチャーが行われていないときにも視聴できる機能を備える。「ワークサロン」は、無線LAN環境を整え、緑豊かで静寂なスペースであり、主として社会人のための書斎として利用できるように配慮されている。

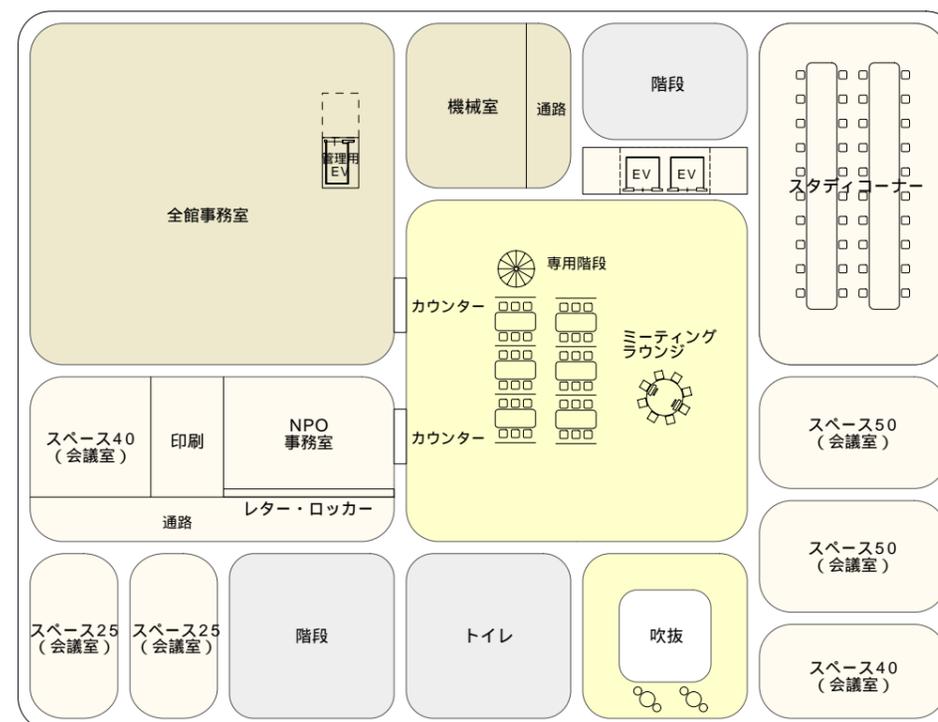
このフロアは、「市民活動を支援するための機能」（ミーティング・ラウンジ、印刷コーナー、ロッカー・レターケースコーナー等）、用途に合わせて利用できる大小さまざまな「スペース（会議室）」、青少年を含めて市民が落ち着いて学習できる「スタディーコーナー」などが配置され、市民の多様な活動を支援する場となる。

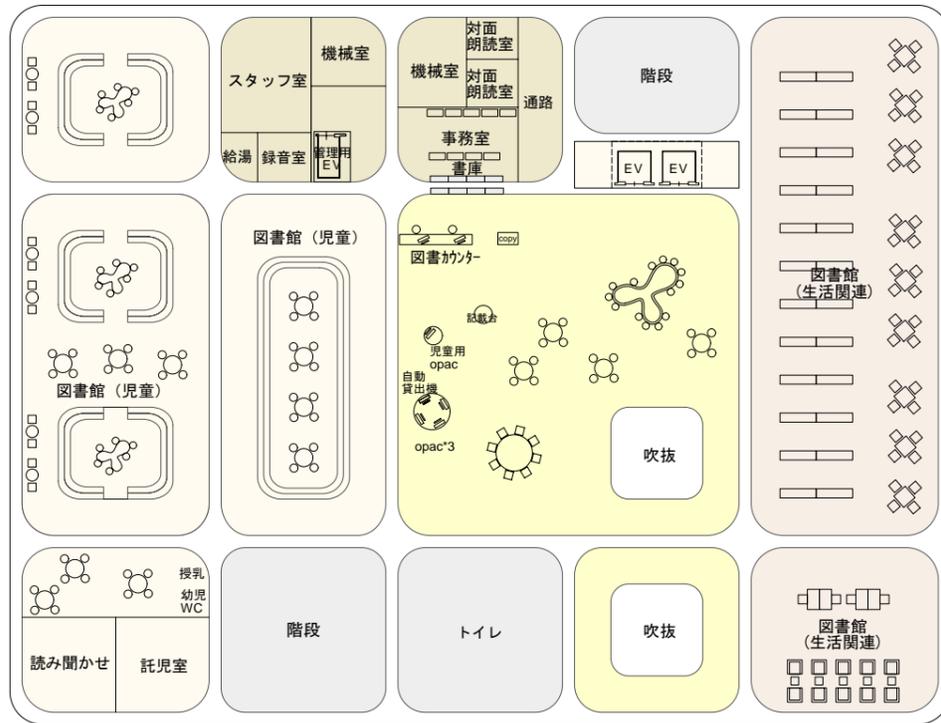
スタディーコーナーが同フロアにあることによって、青少年や個人の利用者が自然に市民活動の場に接し、市民活動への参画を促すことにもつながる。

さらに全館事務室と市民活動事務室を隣接して設けることによって、より緊密な運営をはかることができる。

吹き抜け部分に4階への直通のらせん階段等を設けることによって、4階を含めた一体的な管理が可能となる。

3F: 市民オフィス



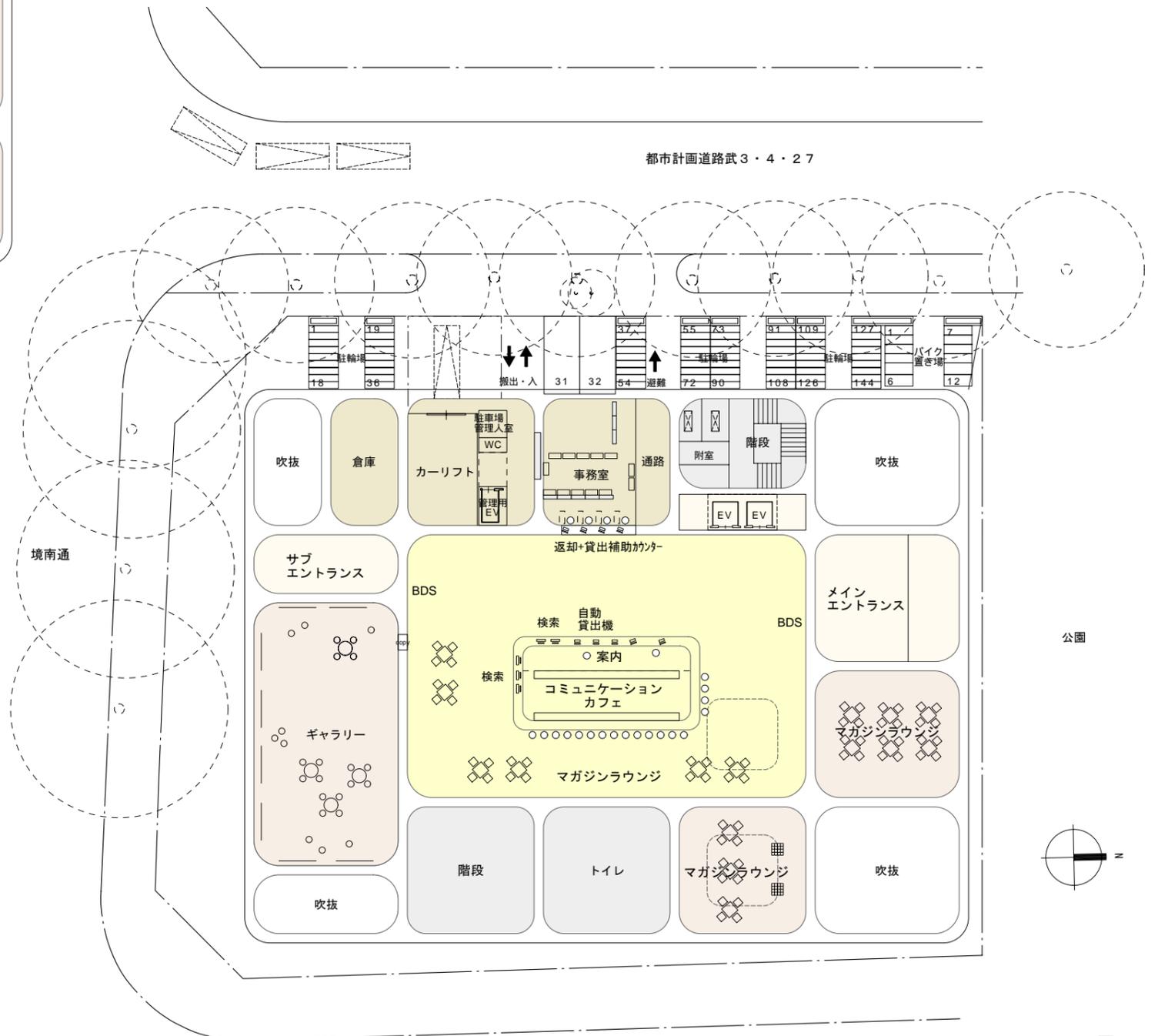


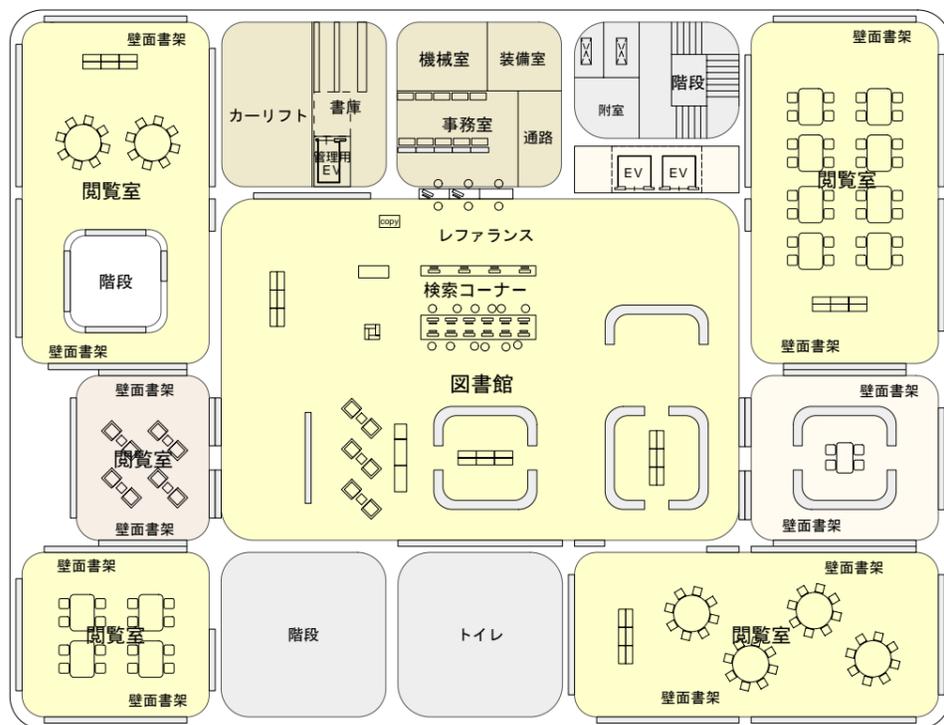
2F: サブ・ライブラリー

このフロアは、「サブ・ライブラリー」として位置付け、一般図書が配置されるB1Fの「メイン・ライブラリー」に対し、児童図書と生活関連図書を中心に配置される。
 フロアの中央部分には交流スペースを設け、親子で来館しても共に楽しめるような場となる。また、障がい者サービスのための対面朗読室、録音室を設置する。
 児童図書エリアには、読み聞かせ室や託児室を設置する。

このフロアは、複合的な施設のロビー空間として機能するとともに、上下階をつなぐ図書館としての機能を合わせ持つ。
 エントランス付近には、「マガジンラウンジ」が設けられ、最新刊の雑誌を配置する。
 また、広く施設の活動を表現する場として「ギャラリー」が設けられ、館内活動紹介・発表イベント、図書の企画展、作品の展示等が行われる。
 また、館の案内、相談ができるコミュニケーション・カフェ（情報コンシェルジュ機能+カフェ）を中央部分に配置し、ギャラリーやマガジンラウンジと一体となって、にぎわいと活気に満ちた場を創出する。

1F: 市民プラザ





B1F: メイン・ライブラリー

このフロアは、吉祥寺図書館と同等規模の約7万5千冊の一般図書を備えた「メインライブラリー」である。地下の図書館という利点を生かし、周辺の壁をすべて壁面書架とすることによって、「本に囲まれたゆったりとした閲覧室」という特色ある雰囲気をつくり出すとともに、閲覧席数の充実をはかる。また、レファランスのためのカウンターの他に、インターネットやオンラインの検索システムが利用できる端末を充実させた「検索コーナー」を設ける。

このフロアは、軽い運動や軽読書、学習など、多目的な用途に供する「プレイスペース」を中心に、バンドの練習などができる「音楽スタジオ」、演劇やダンス、コーラスなどの創作活動のための「スタジオ」などを備え、主として青少年のための活動の場を提供する。インフォメーションボードなどが設置され、個々人の活動が展示されることをきっかけに積極的な参画が生まれるように配慮する。「スタッフルーム」を設置し、周辺の大学生、高校生によるフロア運営への参画を促す。またフロアの一部には「アート系図書コーナー」が配置され、上階のメインライブラリーとつながる。

B2F: スタジオ

